



答辞

いつもより少し暖かかった冬が過ぎ、春の訪れが感じられる今日の良き日に、私たち234名は、思い出深い日高高校を卒業することとなりました。困難な状況の中、このような場を設けて頂いたことを、心から嬉しく、ありがたく思っております。本当にありがとうございます。

思いおこせば三年前、私たちは新しい制服に身を包み、これから始まる高校生活への期待を胸に、日高高校の門をくぐりました。入学式の日、天気が悪く、新しい高校生活への不安が大きくなったことを覚えています。しかし、新しい生活が始まり、明るい性格の担任の先生との何気ない会話や、新しくできた友達と同じ時間を過ごすことで、不安は徐々に消えていきました。球技大会では、優勝を目指し一致団結していく中で、クラスのぎこちなさは消え、仲間としての絆が生まれました。

文化祭では、1年生は展示、2年生は舞台発表、3年生は模擬店を開きました。特に、私は2年生の舞台発表に向け、練習を重ねた日々が印象に残っています。最初は、振り付けなどを覚えるのに苦労しましたが、友達にアドバイスをもらったり、それを生かして自分自身が違う友達に教えたり、皆で協力し合って完成へ近づけていきました。発表が近づくにつれ、踊ることへの自信もつきました。この思いがより一層、頑張ろうという思いをかきたてました。当日は、たくさん練習してきた時間に比べ、発表する時間は一瞬で過ぎ、少し切ない気持ちにもなりました。しかし、仲間と積み重ねた努力が、良いパフォーマンスや自信、仲間との絆を深める道だと学びました。

修学旅行では、台湾を訪れました。そこで日本とは違う食や現地の伝統文化に触れ、新しい経験をしました。現地の高校生との交流では、あまり会話ができなかったことから、自分の英語力のなさを痛感し、とても悔しかったことを覚えています。

修学旅行だけでなく、日高高校を訪れた外国の方たちと、国際交流することができた経験は、グローバル化が進んでいる社会を、私たちがどのように進んでいくべきか教えてくれました。

高校生活を振り返ると、3年生が一番濃い一年でした。誰もが、受験や最上級生としてクラブを引っ張ったことなど、いろいろな経験をしたと思います。私もいろいろな事を経験しました。その一つが生徒会長を務めたことです。先生に声をかけて頂いた時

は、学校の代表を務めるということへの恥ずかしさや、自分に生徒会長を務まるのだろうかという消極的なことばかりが頭にあり、すごく悩みました。しかし、相談した先生に、「迷うなら、やる方がよいよ」と助言され、決断しました。

最初は、一人で頑張らないといけないと勘違いしていて、不安と孤独を感じていましたが、友達が参加してくれ、一人ではないことを実感しました。文化祭の運営や対外的な行事は、支えてくれた友達や下級生のおかげで乗り切ることができました。人の支えや思いやりの素晴らしさを改めて実感することができました。挑戦することは勇気があることですが、挑戦することで、気づくことや得るものがあります。なので、挑戦することは、価値があることだと気づきました。

辛かった受験も、振り返ってみれば、全てが辛く苦しいものではありませんでした。勉強に費やした時間と成績の伸びは比例せず、伸び悩む時期もあったし、苦しい思いもたくさんしました。しかし、受験と戦っているのは一人ではありませんでした。クラスのみんなの頑張っている姿が、私の崩れそうな気持ちを固め、前向きに頑張ろうと思える活性剤にもなりました。何気ない会話、また、仲間という意識が受験を乗り越える私たちを支えたものだと思います。そう思えたのは、1年生から行事や日頃の授業、休み時間など学校生活で培われてきた、目に見えない強い系があるからです。仲間と過ごした時間は気づけばもう、三年という月日が経ちました。おはようで始まり、一緒に授業を受け、休み時間にはたくさん笑った当たり前の日々は、高校生活をかけがえのないものにしました。一緒に泣いたり、笑ったりするのが、今日で最後だと思うととても淋しく思います。これからは、それぞれが別々の道へ進みます。慣れない環境、思いもよらない壁にぶつかることもあると思います。しかし、これからも私たちは仲間です。距離は離れても助け合い、高め合う仲間でありたいと思います。今まで、本当にありがとう。

在校生の皆さん、少しおかしなたとえですが、1年生は特急、2年生は新幹線、3年生はリニアモーターカーのように、学年が上がるにつれ、時間が早く感じます。階段の踊り場で足踏みをしているように順調に事が進まないことや、失敗ばかりすることも多いでしょう。そんな時でも、前に進み続けることを恐れなくてください。苦しんだ経験、失敗した経験は必ず今後につながります。それらを次にどう生かすかが大事です。私は、日高高校に来てよかったと何度も思いました。なぜなら、日高高校には、良いところがたくさんあるからです。そのうちの一つは、皆純粋で、ありのままの姿で、身を飾らなくても楽しく過ごせたからです。他にも、信頼できる先生や学校の環境がそう思わせました。これからも、日高高校の良さを維持してください。また、在校生の皆さんも日高高校の生徒であることに誇りを持って卒業できるように、より良い学校にしてください。

いつでも私たちの味方であり続け、寄り添ってくれた家族。今まで私たちを育ててくれてありがとう。感謝してもしきれません。当たり前の存在のように、一緒に過ごしてき

ました。反抗したり、悩ませたりもしたと思います。私たちのために、毎日してくれたことや影で支えてくれたことがなかったら、今過ごしている日常の生活はないと思います。改めて、存在の大きさを感じました。そんな大きな存在は、大学生、または、社会人になり、さらに実感すると思います。慣れないうちは、まだまだ頼ってしまうと思いますが、恩返しができるように、日々、切磋琢磨し精進していきます。これからも、よろしくお願いします。

先生方は、分からないところを質問すれば、私たちが納得いくまで付き合ってくれました。進路や悩みを相談すれば、先生として、また一大人として教えてくれました。時には厳しい指導もありました。しかし、その厳しい指導の裏には、先生方の生徒への思いやりや熱い期待を感じました。次は私たちが、何かの形で先生たちに恩返ししたいと思います。ありがとうございました。

さて、現代社会には、少子高齢化や気候変動など様々な不安な要素があります。特に今、世界中の関心がコロナウィルスに集まっています。マスク不足や、もし自分が感染したらというような不安がいっぱいです。

世界経済への影響も大きく、特に、中国と経済的な関係が深い日本への影響も計り知れません。その一方、世界では、コロナウィルスによる中国人や日本人などアジア人に対する差別や偏見などがうまれています。これらの問題からわかるように、私たちが旅立つ社会はグローバル化が進み、今よりもボーダーレスな社会、他国からの影響を受け、他国へ影響を与える社会になるでしょう。

自分たちの文化を理解し、相手の文化を尊敬できる柔軟な対応力や、自らを発信し行動する力を身に付け、社会の一翼を担うことを決意します。

本日、私たちは日高高校から巣立ち、それぞれの道へ進みます。胸の内には、高校に入学した時のような不安もあります。しかし、日高高校で学んだ挑戦する気持ちや仲間と支え合う中で育んだ力を糧に新しい一步を踏み出します。夢を実現するために、立ち止まることなく前進してゆくことを決意し、答辞といたします。

本日はありがとうございました。

令和二年二月二十八日

卒業生代表 北野 涼(きたの りょう)

